

2005年5月18日

JPAP™(Japan Partners Against Pain: ジャパン パートナーズ アゲインスト ペイン)

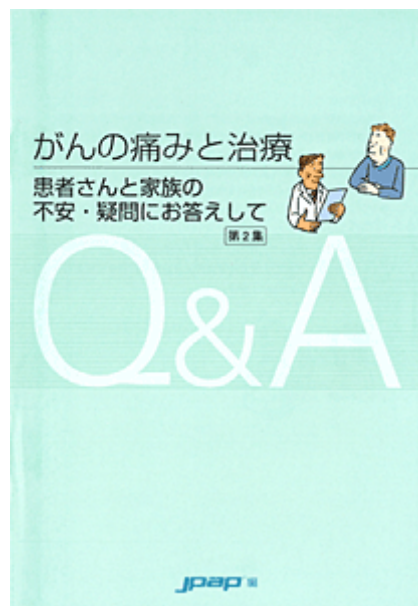
～がん性疼痛緩和治療の正しい情報提供のために～

「がんの痛み」についてやさしく解説した小冊子を発刊

「がんの痛みと治療: 患者さんと家族の不安・疑問にお答えして 第2集」

上記小冊子1冊を、1,000名様へ進呈いたします。

※ご参考 がん性疼痛に苦しむ患者さんとその家族の方からの切実な声をまとめました。



JPAP(Japan Partners Against Pain: ジャパン パートナーズ アゲインスト ペイン) は、日本のがん性疼痛治療に携わる主要な医療従事者たちが、疼痛治療の重要性や社会的意義を幅広く啓発するために設立した団体です(* 最終ページご参照)。この度、JPAP では『がんの痛みと治療 患者さんと家族の不安・疑問にお答えして第2集』と題した小冊子を作成しました。

この冊子1冊を1,000名の方に進呈いたします(希望者多数の場合は抽選となります)。

■JPAPTM 小冊子 概要

タイトル	内容	判型
がんの痛みと治療～ 患者さんと家族の不安・ 疑問にお答えして 第2集	2004年12月に発刊した「がんの痛みと治療 患者さんと家族の不安・ 疑問にお答えして」の続編。がんの痛みをお持ちの患者さんとそのご家族から寄せられるさまざまな疑問へのお答えとして、紙面の都合等により前号では掲載しきれなかった疑問の中から、ホスピスなどの専門施設に関する情報や日常生活の過ごし方、民間療法について、そして、在宅ケアにおける医療用麻薬の管理方法などを取り上げています。	A5判/ 全26頁

※当件の募集は2005年7月末日で終了いたしました。

<参考資料>

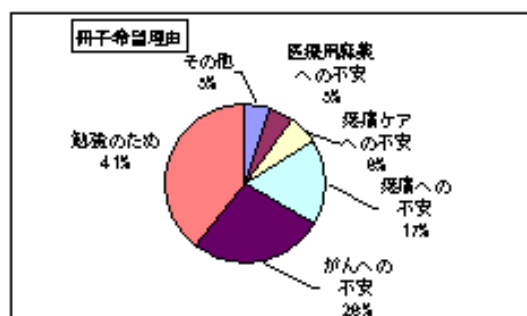
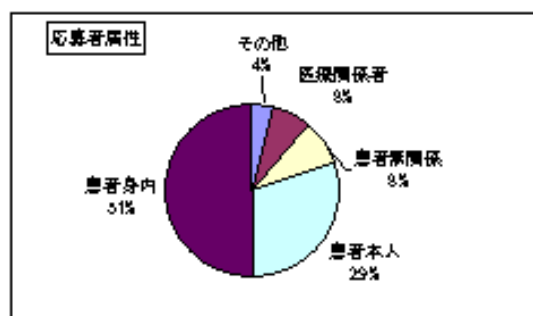
■がん性疼痛に苦しむ患者とその家族の実態

JPAPでは2004年12月から2005年2月までの期間に、今回同様、小冊子『「がんの痛み」をコントロールする』『がんの痛みと治療 患者さんと家族の不安・疑問にお答えして』の2冊を一般公募により1,000名の方に進呈いたしました。

その際寄せられた、がん患者さん、またそのご家族の方々の声から、疼痛治療について自ら学ぼうという方が増えてきている事がわかりました。同時に、医療用麻薬について患者さんへの詳しい説明がされていない事に代表される、患者さんと医師のコミュニケーション不足、そして(患者さん側は)痛みのコントロールが適正になされていないと実感している事など、日本のがん性疼痛治療における現状の課題が見えて参りました。

その声の一部を以下にご紹介させていただきます。

(n=860 *有効回答者数)



■医療用麻薬への不安の声

- ・最近痛みが強くなりモルヒネを2錠から4錠に増やした。今後モルヒネを服用し続けることで効果がなくなること、また、モルヒネを増やすことに不安がある。(患者本人)
- ・痛みがあるので先生がモルヒネを出してくれたが恐くてまだ飲んでいない。(患者本人)
- ・姉(肺がんが脳に転移)が入院中モルヒネを使用。副作用で幻覚がひどく辛かったと聞いたが、本当にそのようなことがあるのか？(患者身内)

■痛みのケアへの不安・不満

- ・まだ緩和治療という言葉も聞かれなかった頃、看護師をしていた。癌の痛みを訴える患者さんには我慢をさせることが多かった。(医療関係者)
- ・訪問看護師をしているが、医療用麻薬を使った在宅での疼痛コントロールをする機会が増えてきた。しかし、家族や周囲の理解が追いつかず、まだ充分有効的に使用できてはいない。(医療関係者)
- ・ただモルヒネを増量するばかりで、癌の痛みから解放される日が一日もなく続いている。(患者本人)
- ・母が末期がんの時、痛い時はすぐに知らせて欲しいと言われてたり、なるべく我慢して欲しいと言われてたり、看護師によって対応が異なっていた。(患者身内)

■疼痛への不安

- ・今まで身内や親戚でがん末期に痛みを耐えることが出来ず、悲鳴に近いうめき声を出して亡くなる方を何人も見ている。がんが末期になったらホスピスに入って痛みを緩和し、安らかに過ごしたい。(患者本人)
- ・妻が乳癌で痛みを訴えるが、私には痛みを和らげる為に手でさすってあげる事しか出来ない。(患者身内)
- ・義弟がガンで死亡した。痛みを苦しんだため、病室の部屋の壁はかきむしられ、ひどい状態だったと聞いた。(患者身内)
- ・現在夫が肺がん治療中。抗ガン剤を使用すると吐き気とだるさがひどいため、使用を拒否して毎日痛みを耐えて苦しんでいる。一緒にいてどうにも出来ない。(患者身内)

■勉強のため

- ・看護師をしている。癌の患者と接する機会が多く、麻薬にて痛みをコントロールしている患者さんも少なくない。小冊子を仕事上でも活用したい。(医療従事者)
- ・母が、胃がんの痛みをとる為モルヒネを使用していた。医師からこの薬がどうして使われるのか説明はされなかった。私がモルヒネを使用する事があった時、不安にならない様に勉強したい。(患者身内)
- ・父が肺がんになり、現在は自宅で鎮痛剤パッチを貼り換えている。忙しい医師に気を使って、詳しく質問出来ない両親の為に勉強したい。(患者身内)